

東北電力・女川原発再稼働に断固反対 原発は衰退産業

岸田政権が前政権までの「原発は最小限の利用とする」から「最大限利用する」政策に転換し、原発再稼働が進んでいます。福島原発事故被害がなかったような原発政策に断固反対します。

東北電力は女川原発の再稼働を中止せよ

東北電力は10月29日、女川原発2号機（宮城県）の原子炉を起動させました。女川原発は2011年3月の東日本大震災で被災した原発として初めての再稼働です。地震直後に13mの津波が襲い、外部電源5系統のうち4系統が遮断されました。全電源を喪失していれば福島原発事故と同様、燃料棒が冷やせず大事故を起こす直前でした。

事故後、津波対策として29mの防潮堤設置や、テロ対策費用として7100億円もの安全対策を進めてきました。しかし、「何重にも防護策があり大丈夫」との安全神話に取り込まれ、東電は事故を起こしました。

今年元旦の能登地震でも志賀原発では複数の被害が発生しています。避難経路と設定された道路はいたるところで寸断され、避難することは不可能でした。女川町でも避難計画は一応準備されていますが、原発が牡鹿半島の中ほどにあり、避難の実行性も危ぶまれています。バスの確保や配備もできていない状態です。この避難計画の下で再稼働して重大事故が発生すれば、住民の健康も命も守れません。東北電力は再稼働中止を決断すべきです。

原子力産業は衰退の一途

石破首相はこれまでの原発施策を引き継ぎ、規制委員会が安全と判断した原発を利用していく方針です。3年前の第6次エネルギー計画では2030年の原発比率を20〜22%の目標としています。しかし実際には西日本を中心に12基の原発が動いています。電力全体に占める原発の比率は5%程度です。審査中の原発を含めても国の目標達成は出来ません。

東日本大震災以降、各地の原発は安全対策として原発関連の事業者には仕事がありませんでした。しかし今後は原発輸出も国内新設も見込めない中で、将来の事業見通しが立たず大手企業が撤退しています。原発の部品調達企業も減っています。だからこそ、原子力関連団体は自民党にこの10年で70億円もの企業献金を送り、必死に原発を擁護する政策を作らせています。しかし一時的に再稼働、稼働期間の延長があっても原発は衰退の一途をたどります。

国民負担で原発新設を検討

自民党政権は国民に分かりづらい形で原発の延命策を作ってきました。さらに今後は原発新設に向けた国民負担を検討しています。原発を新設するには安全対策がこれまで以上に必要となり、施工期間も長期になります。イギリスで新設の原発は1基4兆円もの費用がかかります。経済性がなく、金融機関の融資がつかないため、電力料金利用者から薄く広く原発支援の料金を徴収します。さらに原発が工事中でも電力会社は支援を受けることができず。電力会社に「至れり尽くせり」のこの方式（RABモデル）を日本にも導入しようと政府は検討しています。

脱炭素は待ったなし

毎年「異常気象」が更新し、夏の暑さは人にも農作物にも悪影響を与えています。福島市の2004年と2023年の夏日、猛暑日を比較してみました。夏日、猛暑日の合計は19年前と比べ17日も増え、猛暑日は約5倍です。

福島市	夏日 (30℃以上)	猛暑日 (35℃以上)
2004年	56日	7日
2023年	46日	34日

この傾向は今後さらに悪くなるのが想定されています。根本的な対策として省エネと化石燃料由来の発電や運輸部門を脱炭素電源（再生可能エネルギー）に切り替えていく必要があります。政府は原発を脱炭素電源と位置づけ、大きな予算措置をしており問題です。

日本は再生可能エネルギーに適した条件であると環境省も試算しています。その中でも屋根設置や農地へのソーラーシェアリングが増えると予測と期待がされています。重要なことは発電事業・農作業を地元の農家や農業法人が実施することです。福島農民連では農水省の補助事業を活用してソーラーシェアリングを建設しています。原発予算を減らし、この補助事業予算を大幅には増やすよう求めています。また蓄電池も価格が低下しており、太陽光との組み合わせで脱炭素社会を目指していきます。

水田でも設置可能です。米の収穫量も大きく減少しません（福島市）



大豆栽培のソーラーシェアリング。20a程度の農地で実施可能です。（福島市）



牧草畑に設置された垂直型ソーラーシェアリング。農作業がしやすく、朝と夕方に発電がピークとなり需要とマッチしています。（二本松市）



農民連フラッシュ flash

「総選挙をみんなで語る会」を開催

東北農民連は10月16日から「総選挙をみんなで語る会」を12支部で開催しました。総選挙で暮らしや農業に何を期待するか、みんなの思いを出し合いました。裏金に腹が立つ！資材が高い！物価高騰なんとかして！どの候補者、政党が実現してくれるかも重要ですが、今後の農民連運動の大事な宝になりました。



農民怒りの軽トラパレード開催

11月1日、安達地方農民連は怒りの農民行動・軽トラパレードを開催し、10名が参加しました。宣伝カーや軽トラなど9台にのぼりとスローガンを掲げ、市民に食料自給率向上やALPS処理水海洋放出反対、インボイス制度廃止などをアピール。菊地好幸会長は挨拶で衆院選の結果を受け「今が農政を転換する好機」と訴えました。



楽天市場出店はじまりました！

お店の名前は【福島農民連の Koranshop】

福島の方言、こらんしょ「いらっしゃい」「来てください」という意味からきています！
楽天市場からのご購入お待ちしております！



福島農民連の Koranshop

こらんしょっぷ

こちらから